

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 協同福祉会	代表者	村城 正	法人・ 事業所 の特徴	住み慣れた地域で、その人らしく最期まで暮らしていけるように、10の基本ケアを実施しながら、在宅での暮らしを支えています。 法人としても、郡山、天理、奈良、生駒と21事業所にて、ほっとかない・ほっとけないを合言葉に、地域の福祉拠点となれるよう取り組んでいます。
事業所名	あすならホーム東生駒	管理者	池田 孝生		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・ 地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	2人	1人	人	9人	人	15人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	職員教育、外部へのアプローチを実施。介護を必要とされていない方でも、安心して気軽に来られる事業所を目指す。	なかなか地域の方との交流が少ない。	地域密着とはいうものの、どれだけ地域の方に知ってもらえているのか。	定期的に学習会などを実施し、事業所を知ってもらう。 地域の多職種の方とも連携し、パンフレット等も置かせてもらう。
B. 事業所のしつらえ・環境	整理・整頓・清潔・清掃の4Sを意識し、感染症を防ぐ。アットホームな生活の一部になるような環境づくりを行う	感染症予防を行いながら、明るい雰囲気職員と共に意識し、環境作りを行った。	利用者さんが過ごしやすい環境づくりは行えている。 感染症対策も実施出来ている。	毎日、都度の消毒の徹底を行う。 5S活動(整理・整頓・清潔・清掃・指導)の実施。
C. 事業所と地域のかかわり	子供からお年寄りまで地域の方にとり関わりを持ち続けられるように、企画の発信を行っていく。	地域との関わりを全く取り組めていなかった。	コロナ禍で地域の方々との関わりが出来ていない。どうしたら関り続けることが出来るのか、検討が必要。	つながり連絡員の再構築。 コロナ禍においても、関りを持つ工夫を事業所全体で考える。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	行政・包括・民生委員・地域医療との繋がりを大切に、地域でいつまでも暮らせる街づくりを目指す。	感染症を気にすることにより、なかなか外部への働きかけが出来なかった。	電話などでの関りがほとんどだった。	短時間でも時間を確保し、月に2回は訪問し、情報交換を行う。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議にて、地域での困りごとや地域資源の発信を密に行う。	コロナ禍において、運営推進会議の開催が出来ていなかった。 書面のみでの報告にとどまった。	紙面だけの情報共有にとどまってしまった。 開催の仕方を工夫し家族も含め参加できる仕組みを作る必要があると思う。	コロナ禍ではあるが、リモートなどを利用し、顔を合わせて出来る仕組みを作る。 家族の方にも参加を呼び掛ける。
F. 事業所の防災・災害対策	ご利用者やご家族にも災害対策に関する情報の開示を行う。ハザードマップの共有・災害時の対応を地域の方と一緒に考える。	コロナ禍の中で、集まる機会がなく、地域の皆さんとも災害に対しての共有が出来ていなかった。	防災訓練の実施が出来ておらず、いざという時に、どのように対応していいの不安がある。	地域の方とも一緒に災害訓練を計画的に行う。(火災だけではなく地震なども想定し行う)